

子育て公園

話しているうちに 見えてきた

研究所の事務を引き受けている鈴木さんのお友だちのお母さんたちの子育て談義です。「研究所通信」、「にいがたの教育情報」の発送業務の心強い応援団でもあります。

群れの中にいないと不安な子ども

「小学校五年生の娘が修学旅行中の自由行動時間の小グループづくりでとても気をつかっているの」「小グループづくりからひとり取り残された子がいるので困っているみたい」こんな話がかっかけで、子どもたちがいまとともにだちとの付き合い合いに気をつかっていることに話題が集中しました。特に女の子をもっているおかあさんはその事をつよく感じているようでした。

「ひもで結ぶブーツを買って欲しい」というのもみんながそうしているからということで「ファッションがみんなとちがうと不安だ」ということとみたい」とそのお母さんは思案顔です。

女子高校生のルーズ・ソックスや女子高校生のあいだけで交わされ

る流行語（隠語？）に象徴されるように「わたしはわたし」というアイデンティティがつかめず、一人ではいられない心理的不安にいつもかられているのはなぜだろうという疑問をみんなが感じています。

「わたしの頃はいろんな人とその時の共通の興味でグループができ、興味が変わっていくとまた新しいグループができていたように思っていたんだけど、また一人でいるのが好きなだけ、また一人でいるのが好きでいる人もいて、それをみんなが認めていたように思うのだけど」「高校に行くまで固定した同じグループの中で気遣いをしながらいくのはつまらないと思うの」というおかあさん、でもどう変えていったら良いか知恵はなかなか浮かびません。「男の子は自分をもってみたい。これはなぜかしら…」というお母さんの発言、そんなところをもっと突き

詰めてみたい気がします。

「そのままでもいいの？」部活動」

部活動で頑張る子どもたちは自分の世界をもっているという意見におかさんたちは批判的でした。

小学校ではサッカー、ミニバスケット、野球、水泳、音楽（器楽合奏）等が盛んです。でもそのクラブは上級生だけ、放課後、体育館、グラウンドを占拠してみんなの遊び場がなくなります。

「この頃は先生も子どもを地域にお返ししますとかいってあまりかわらない傾向もあるのよ。その分、地域の指導者と一部の親たちの加熟した指導もうまれてきて、休日ごとの競技大会で勝敗にこだわり過ぎるのも困るわ」「子どもたちが安く、楽しく、家庭も安心してまかせられる部活動はないのかしら。子どもに

は冬の暗い夜道の迎えも大変で止めてもらったの」というお母さん、さりとて地域に子ども文化を作り出していくことへはなかなか思いはおよばない会話です。

「させられる生活でいいの？」

「部活動をやめた子が帰宅部なんかかっこわるいから新編義塾にいくというの。ぼーっとしてるのもいいのにとこのに：」というおかあさん、もうひとりのおかあさんは「うちの子は休日ほんとにぼーっとしているの」

話しているうちにどちらも学校でさせられる生活ばかりしている一方で一方の子は暇だとおちつかないのでせかせかとしている、もう片方の子は自分で見付からないでぼーっとしているという事だとしたら大変だということになりました。

ほんとはどうなんでしょう。

子どもたちは「学校化社会」の中で先生と親そしてジジ・ババまでがあれこれと子どもが転ぶ前に手を出し足をだし、口をだすから、させられる生活、が身に着いてしまっ、したいことじっくりみつけるひまがないのかもしれないという話にもなりました。

おとうさんが会社人間だということでもありました。「家庭が基本だ」と子育てにお父さんがきちんとかわわってくれるというおかあさんは一人でした。

「わたしが家庭の太陽だ」と明るく子育てを一身にせおってたつおかあさんたちは、子育てに深く関わらないで「させられる仕事」ばかりしていて老後をむかえるお父さんの孤独を心密かに心配しています。

本物のPTA活動はむづかしい

適確な「子育て情報」を手にいれることは大変です。情報入手の一つPTA活動について話がおよびました。

「お母さん中心ですからカラッとしたものにはなかなかありません。でも、へんに男の人が副会長などになって会社の部下でも使うように動いたり、女性の能力を尊重できない民主的資質の欠ける人がでてきてしまうのも困ってしまいます」

「やたら仕切りがするのはもうはやらないのよね」となかなか辛辣です。

「パネルをそろえての全校懇談会をやった小学校があったそうよ。その時に保護者から出された学校への要望は、職員会議で検討してから、文書で回答された。そのひとつに、

参観日が一日中ひらかれるようになって、いつでも、どこでも参観できるようにになったんですって。学校の方向性が見えて一歩前進だよね」という発言もありました。

でも、おかあさんたちは厳しい目をもっていました。「ほんとうに自由な議論をするなら先生方がいろんな意見を自由に親の前で述べあって、いったりきたりの話の中のものが決まるべきだと思う。聞きおいてあとで回答するだけでは気持ちがつたわらない」といいました。クラスで小集団で話し合い、それを交流し合うという自由な学級懇談会の積み重ねがベースになるという経験もかたられました。

地域の中で夫婦で子育て

それにしても地域での家と家とのかわりがとても薄くなったとお母

さん達は思っています。「近所に子ども泣き声がしないものね」ことも情報が地域でも入ってこないようです。叱られた子どもは外に出されて玄関のインターホンの前でしくしく泣いています。

先輩格の鈴木さんの話「少し前だけど、わたしの団地では子どもの行き来が深く、叱られて泣いている近所の子の話を聞き取って親との間に入ってあげることがしばしばだった。そんな付き合いがいるのよね」お父さんもかわる地域の親子ぐるみの付き合いが再生されねばの聲に、一人のお母さんが「聞いた話だけど、上越市のある学校でお父さんの力も借りざるを得ない企画をお母さんたちが立てて文化祭を盛り上げたってきいたよ。

夫婦で動くPTA活動は質がまったく変わってくるみたい」

何かがみえてきました。子育ても「させられる苦勞」から脱して「する苦勞」を夫婦で取り組むと、みんなで取り組むと変わりそうです。

— 話終わった後で —

先日は、良い機会を得ることができありがとうございました。私は話べたなので、ピントはずれかも知れませんが、少し書かせていただきました。思いつくままなので、鉛筆書きで申し訳れございません。縁があって、このような活動をされていることを知り、心強く思っています。益々のご活躍をお祈り致しております。

五月十二日

草々

核家族の中での子育ては、育児雑誌にあるように、皆と同じレベルでないと不安にかられることが多い。個性のある子にと願う反面、他の子と同じだと安心するという意識が親の中にある。子供が、子供同士のふれあいの中で、いろいろな性格や考えのある子がいることを知り、成長していけるよう見守ってやれたらと思う。

勉強していればいい子なのでしょうか。家庭の仕事を分担させ、やり終った後で心から誉めて認めてやるのが、家族の一員として役にたっているとの思いを持ってくれるのでは。それが自主性をみにつける第一歩になると思う。

自然との交わりを持つことで、子供本来の感性が目覚め、生きる力になると思う。

(M)

*** お知らせ ***

会費をお振込の時は、払い込み料金を研究所で支払うことになっております。振込用紙の右上に通常払込料金加入者負担と印刷されてあります。しかし、古い振込用紙でなにも書かれていないものがあります。お手数をおかけします。郵便局で払込み料金を請求されましたら、加入者負担です、と言ってください。お願いいたします。

